

日本放射線影響学会第 61 回大会の開催にあたって

日本放射線影響学会第 61 回大会を平成 30 年 11 月 7 日(水)から 9 日(金)の期間、長崎市ブリックホールにて開催させていただくことになりました。長崎大学原爆後障害医療研究所スタッフや放射線影響研究所の研究者の方を中心に実行委員会を、さらに全国の放射線影響学会会員にもお手伝いいただいてプログラム委員会を設置し、準備を進めてきました。

今回の大会のテーマは、「放射線研究は、世のため人のため」としました。勿論すぐに役に立つかどうかわからない、或いは研究者の知的好奇心・探求心による基礎研究も重要ですが、古くは原子爆弾、新しくは福島での原発事故による放射線人体影響の懸念を鑑みると、放射線影響研究は市民生活に密に直結した非常に重要な研究と言えます。しかもその研究範囲は純粋な生物学的研究から科学と一般市民との関わり方に関する社会科学的な研究まで広範に亘ります。放射線影響研究者の減少が危惧されている中、実はもっと多くの研究者が必要な分野です。さらにどちらかというとなりのイメージを持つ放射線影響研究だけでなく、近代医療の診断・治療等には不可欠な正のイメージを持つ医療放射線研究分野も放射線影響研究の重要な位置を占めます。

本大会では、長崎の特徴と大会長の興味から、長崎・広島原爆、福島原発事故、アジアでの緊急被ばく医療への取り組み、放射線健康リスク教育に関するシンポジウム、ワークショップを独自に組みました。

また、本大会では次のような新しい取り組みをします。公募シンポジウム・ワークショップは、まとめて公募していたものを、それぞれの定義を明示して個別に応募しました。特にシンポジウムは英語使用を推奨します。さらに女性によるシンポジウムとして「女性科学者が拓く多様な放射線研究」も企画しました。加えて、学会に合わせて市民公開講座を企画しています。昨年ノーベル平和賞を受賞した核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)の運営委員・川崎哲氏に講演をお願いしております。

しかし、このような企画を組みはしますが、学会で最も重要なことは、学会員が最新の研究データを持ち寄り、熱く議論を交わすことと考えます。そのためには 1 人でも多くの方に演題を出していただき、学会に参加いただくことが大事です。それが学会の成功に結び付きます。是非多くの皆様のご参加をよろしく願いいたします。

日本放射線影響学会第 61 回大会

大会長 永山 雄二